

No.4

2000. 9. 1

# 地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

■発行 特定非営利活動法人  
地球の木 理事会  
■発行責任 横川芳江  
■編集 広報部  
■事務局 〒222-0033  
横浜市港北区新横浜2-8-4  
TEL 045-471-5536  
FAX 045-471-5543  
E-Mail:CZR10753@nifty.ne.jp

## CONTENTS

- 知ることが生きる力になるように
- 特集 なぜ今開発教育なのか
- 支援地から 出会いのきっかけ
- 「チャーロッオウブルダイ」をよろしく
- かわりつつある北朝鮮
- ネグロスをもっとつたえたい



## 知ることが 生きる力に なるように

副理事長 後藤 雅子

先日のことです。大学生の集まりでワークショップをしました。重労働の後に空腹をやっと満たすほどのお米を買うフィリピンの少年やバナナ・プランテーションでの不当な労働のことを知った後、「ではこれから果物を買うときにどうしますか」という問い合わせに対して、「自分の好きなものをできるだけ安い値段で買う」という答えが返ってきました。これではワークショップをする前と同じです。知ったことが行動につながらなければどうしてでしょう。自分が行動してもほとんどの効果もないから?他の人と違ったことをしたら目立って、いやがらせをされそうだから?

昨年 地球の木が主催したシンポジウムで、パネリストの松井やよりさんが「タイのシニットさんは知ることが行動につながると言われましたが、日本ではそうではありません。皆さん知っている。なのに何も行動しないのです」と発言されたことが、私にはずっと気にかかっています。私の周囲では「そんなこと私は知っているわ」と言うためだけに情報をたくさん集めたがる人がいます。情報をたくさん持っている方が勝ちだと思うからです。そしてその人はただ情報がたくさん積み上がっていれば安心なのです。

ある 途上国の子どもたちがする遊びのことについて聞いたことがあります。走っている電車の屋根の上で立っていて、何か障害物があると素早くよけるの



です。よけそこなったらころがり落ちて、おそらく命は無いでしょう。でも、貧しくて、学校に行けず、職もなく、将来に何の希望も持てない彼らは、そうやって命がけのスリルを味わう他に生きている楽しみがないのです。日本では「人を殺す経験がしたくて」たまたま戸の開いていた家の主婦を殺した17歳の少年の事件がありました。その少年は生きていることの意味や実感がないことに耐えられない思いをしているのではないかと私は思います。そんなに思い切った行動ができるのに、それが知識や経験や人生の計画や目的とうまくつながらないのはどうしてでしょう。

人生は予想できないことに満ちていて、子どもは親とは違う生き方をしなければならないかもしれません。教科書に書かれていることは学ばなければならないことの一部です。私たちが子どもたちにもっと伝えたいのは、自分自身の経験に基づいて行動することが大切だということです。だからそうすることが励まされるように、小さいときから育てられることが必要だと思います。経験は様々な生き方をする人たちと出会い、自分たちと違った生き方に関心を持つこと、これまでと違った境遇を体験することから始まります。そこから想像力が高まり、より広い経験への意欲につながります。新しいことへの挑戦は危険に満ちています。でも、だからこそ生きている感じがするのではないかでしょうか。



編集部

# なぜ今、開発教育なのが

## 開発教育はどうして始まったのでしょうか

第二次大戦後、植民地となっていた国々の多くが独立し、アメリカ、ヨーロッパや国際機関は、これらの国に積極的に開発援助を行ないました。その時現状を訴え、寄付を募るための広報が行なわれたのが開発教育のルーツです。ところが1960年代に入り、一向に途上国の暮らしが向上しない状況の中、開発のあり方に疑問が持たれました。つまり途上国自身が自ら持つ資源を管理し発展をしていくのを助けるような支援でなくてはならないと考えるようになりました。このようなより良い援助のあり方を先進国の人々が理解することを目的として1970年ごろ、市民団体や学校関係者の間で生まれたのが開発教育です。



## 地球規模の問題を知り、考え、行動するために

1985年頃アフリカで大規模な干ばつがあり、飢餓が襲いました。その時、環境と開発が密接な関係にあることが示されました。1990年代に入ると環境問題が地球規模で起こり、その解決には国境を越えた人々の協力が必要となりました。より良い開発のためには地域の伝統的・文化や生態系とのバランスをとることが重要となってきたのです。

開発教育はこうした現状を分析し、構造的に理解し、地球的視野から地域社会がどうあるべきかを個々が考えていくことをめざします。自分たちの日常生活のあり方、差別や偏見を持たないことなど個人レベルの実践によって一人ひとりが自己変革をし、それを社会制度の変革につながる活動に広げる、それによって自分の成長が促進されるという連鎖が重視されます。開発教育は学ぶ側の主体性を大切にします。知識を増やす、ことを主たる目的にしているのではなく、一人ひとりが参加し、行動できるように自らを変えていくことを目的にしているのです。

## 国際理解教育とNGO

イギリスやオランダでは開発教育の推進にNGO(非政府組織)が大きな役割を果たしています。学校の先生はNGOからの生の情報やスライドを活用して教材を作ります。また、地域の拠点となる「開発教育センター」が教材の開発に協力したり、スタディツアーの呼びかけをします。マスコミも開発教育に利用できるような記事や番組を作っています。

日本では2002年から学校の「総合的な学習」の中で国際理解に取り組みますが、共に生きる力を育てるためにはNGOの協力は欠かせません。

(参考資料「『開発教育』ってなあに」開発教育協議会編)



## ことば

### 開発教育 (Development Education)

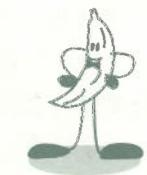
「開発」と聞くと、日本では「経済開発」や「土木開発」を連想しがちですが、英語のニュアンスは少し違います。「成長や成熟を促す」「ゆっくりと得する」などの意味もあり、「人間の心の発展」や「より人間らしい社会の発展」の意味にも使われるのであります。開発教育は、地球上の様々な問題を理解し、私達がどのようにしたら公正な地球社会を作っていくかを学び、行動につなげていくことを目的とした教育活動です。「国際理解教育」や「グローバル教育」も同様の目的を持つた活動です。

## ★やってみよう！開発教育★

開発教育はどのように行われるのでしょうか？地球の木では、市民グループ、小中学校などで数多くのワークショップ、出前講座を開いています。このような講座に先生はいません。ファシリテーター、つまり進行役がいるだけです。“facilitator”とは、「容易にする」、「促進する」という意味の英語“facilitate”から来ていて、参加者の意見を導きだす役割があります。正解を求めたり、講義を聞くだけでなく、体験したり、グループで話し合うことにより、それぞれが考えることを重視します。そこに集まつた一人ひとりの意見が尊重されるのです。そして最後に、「では、どうしたらよいのか」と、身近な行動につなげていくことが忘れてはならないポイントです。でも、これは開発教育に限らず、すべての教育に求められることですね。地球の木の教材「マジカルバナナ」を例にとって、どんなワークショップなのかぞいてみましょう。

### アイス・ブレーキング

ファシリテーターの自己紹介の後に、これから体験を共にする参加者とうちとけるための簡単なゲームなどをします。  
(例：テーマに関する連想ゲーム、他己紹介：2人一組になって互いのことを紹介し合った後、全員の前でパートナー紹介をする、など)



横浜市立市場中学校でのワークショップ



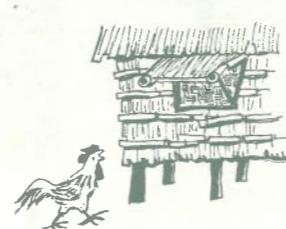
### クイズ

グループに分けてバナナに関する択一クイズをします。基礎知識を確かめるのがねらいですが、どの番号に答えた人にも、なぜそう思うかを聞きます。考え、意見を述べてもらうことで、参加する姿勢を引き出します。

### カードゲーム

自営農民のバナナと多国籍企業の大農園のバナナの生産過程を書いた情報カードを使ったゲームです。グループで読みながら分けていく共同作業で、話しあいを促します。

### ロールプレイ



大農園で働く労働者一家と自営農民のバナナ村で暮らす一家の生活をそれぞれ短い劇にして演じます。参加者に役を割り当て、観客に見せるためではなく、演じる人が疑似体験をして感じ取るのが目的です。

### ダイアモンド・ランキン

自分はどのような消費者なのか？どうあるべきなのか？9つある意見を、めいめいが重要だと思う順に菱形に並べます。「正解」があるわけではありません。意見を整理し、まとめることが大切です。その後で他の人と意見交換します。学んだことを行動につなげる部分です。



この他によく使われている開発教育の教材は、写真を見て考える「フォト・ランゲージ」、紙やはさみを使って世界の経済のしくみを体験する「貿易ゲーム」などがあります。アイディア次第で楽しい体験教材はいくらでも作りだすことができます。あなたも身近なところでやってみませんか？

開発教育に関心のある方は事務局まで

# 支援地から

# ○○出会いのきっかけ○○

ネパールから

## もし、あの時会えなかつたら…

ニルマラさんの来日がきっかけでネパール自立支援が始まりました。「14才で学校に行けない近所の子どもたちに読み書きを教え始め、16歳でレンガの寄付を募って小学校を建てた」というパワフルなニルマラさんに、なんぶの会員達は皆一同に感動し、支援を念頭においた勉強会と交流をすることになりました。ところが連絡をとろうとしてもつかまらないのです。（ネパールに行って分かったのですが、郵便屋さんはいないし、電話は線が繋がっておらず、ファックスはファックス屋に届くのでした！）

私は、「ネパール支援」を掲げて古着を集め、ガレージセールを始めました。毎回「これ草刈ボランティアをしてもらったお金、使ってね」と来てくれる年金生活のおばあちゃんたちのことを考えると、もう、いても立ってもいられず、「ニルマラさんを探してくる」とネパールに向かってました。幸い、出発前に送ったファックスが届いていて空港で感激の再会をすることができました。「私達が出せるお金は少ないけれど、それを一番必要としている人達の所に連れて行って」とニルマラさんに頼みました。首都から20数時間の辺境の地で見たものは、ニルマラさんに対する村人達の尊敬と感謝に満ちた笑顔と、識字教育を受けた女性たちの自信あふれる姿でした。

識字教室・裁縫教室に加え、今年度は意識改革・貯蓄・野菜作り・キッチンガーデントレーニングなど生活向上と収入創出を目指した訓練も行なわれています。コミュニティ・サービス・センターもモンスター明けには完成します。

（なんぶ 乳井 京子）

フィリピンから

## バナナがきっかけ



1985年に起きた砂糖価格の暴落のためネグロス島で失業した大量のサトウキビ労働者とその家族の困窮を救援するため、日本ネグロスキャンペーン委員会（JCNC）が支援を開始しました。やがて支援金を集めて送るだけでなく、ネグロス島の人々が自立していくように島に自生するバナナの民衆交易が開始され、生活クラブ生協が共同購入するようになりました。バナナを売ることでお金を手に入れたネグロスの人々は子どもを学校にやり、三食たべられるようになって喜びましたが、それも一時のことでした。自然の土地に苗の植えつけをしそうにしたため、バナナが病気になって育たなくなってしまったのです。

バナナのことをきっかけにJCNCのことを知った地球の木ではネグロス島にスタディツアーブーに行きました。バナナが植えられるのは大地主が見向きもしない急な斜面の山の土地だけです。広大な平地は大地主のサトウキビのプランテーションで、農地改革法があっても実際には農地で働く人びとのものにはなりません。また、農地の分配に成功した人々も農業技術がなくては農民として自立していくのではありません。バナナの連作障害によって自然の循環を破壊してしまったことに気づいたバナナ村の人も総合的な農業をしたいと思い始めました。すでにネグロスの人々とJCNCの協力によりツップラン研修農場が設立されていましたが成果がなかなか上がりませんでした。地球の木は特にこの農場の運営と研修生のための支援をすることにしました。家畜や野菜を育て、堆肥を使って米やトウモロコシなどをを作る循環型の農業技術を身につけるため、研修生がネグロス島の各地から集められ、今、6ヶ月間の研修を終えた若者が自分の村で有機農法による米作りなどに取り組んでいます。

（県央 後藤 雅子）

カンボジアから

## プロジェクトが広がって…

1992年生活クラブ生協神奈川の総代会での「自衛隊派遣に対して何らかの意思表示を」という発言をきっかけに、「カンボジア市民調査団」が結成され、カンボジアを訪問した。80%以上が農民であるこの国に必要なのは軍隊ではなく、農業の復興と考え、帰国後井戸掘り支援のカンパ活動を行なった。その後地球の木が引き継ぎ、JVCのプロジェクトを支援するようになった。

自衛隊が行なった国道の工事は簡易舗装であったため、その後の洪水で、どこそこになった。また宿舎のプレハブ住宅は寄贈されたが、あの猛暑の国で、ほとんど使われることがなかったと聞いている。今はマスコミからも忘れ去られ、話題になることもなくなった。

7月現在、JVCのプロジェクト地からの報告では、「辰年」は凶作が少なく、安定した年といわれ、何をやっても良い結果が出ると意欲的に活動しているとのこと。綠肥を行なってから3年経過し、やっと、結果が見えてきて、農民も意欲的に働いている。また、溜め池を掘る人が急に増えている。これは砂糖の暴落で、ヤシ砂糖を作らなくなり、空き時間が増えたためとも言われるが、最も大きな変化は、治安が安定してきたため、5年10年先を見て農業が営まれるようになったことであろう。JVCのプロジェクトを外から見ていた人たちが結果を見て一気に広がったのだと、スタッフは大変喜んでいる。

（とうぶ 横川 芳江）

ラオスから

## 隣国タイで見たものは

6年前、村人たちと役人はメコン川を渡り、隣の国タイへ視察に出かけました。この視察旅行は、環境を守るために役立てたいと思っていた地球の木からの支援金が使われました。タイ東北部でラオスの人々が見たものは、すでに森林が伐採されてしまい、農業ができなくなった村人たちが苦しい生活を強いられ、多くの人たちがバンコクなどの大都市スラムへと流れてしまった現状でした。ラオスの村人たちには痛感しました。「タイのようになりたくない」と……。

村人たちは帰国後委員会を設置し、森林を守るため具体的な方策を検討し始めました。それまで森林伐採派であった役人も、森林を守ることが村人の安定した生活に繋がることだと気づきました。この視察をきっかけに、村人と役人はお互いに協力し合い、自分たちで生きていくために森林の所有権を郡から認めてもらえるよう活動しました。

その翌年私たちが現地を訪りました。その時、直径1mもある大きな赤松がトラックに積まれて運ばれて行くのを辛い思いで見ました。この木材は日本にも輸出されているのです。森林を守ろうとしているラオスの人々と、そこで伐採された木材を使っている私たち。資源を国外に頼っている私たちの生活を見直さなくてはならないと思いました。地球の木では設立当時からラオスを支援し、3年前からは自然と調和のとれた農業にも協力しています。

現在ではラオスにも経済開発の波が押し寄せ、首都ビエンチャンでは車の数も増えています。メコン川流域では日本政府や世界銀行の融資でダム等の開発が進んでいます。その影響で森林伐採が進み、環境破壊によって人々の生活も変化していくことが予測されます。

（ほくぶ 飯田 信子）



自然農業の基本と技術を村人に説明する



カンボジアに新たな支援プロジェクト誕生  
孤児のための生活支援施設

## 『チャーロッオウプルダイ』をよろしく

ほくぶ 小泉 恵子

孤児のための生活支援施設「チャーロッオウプルダイ」は、私たち地球の木にちなんでつけられた名前で、「木は良く育つ大地の恵みで」という意味です。元高校教師、松本清嗣氏が、1991年に一人で始めたNGO「るしな・こみゅにけーしょん・やぼねしあ」は、農業協同組合作りから始まって、今やカンボジア人が主体的に運営するコミュニティ協同組合ネットワーク(CCN)を育て、農業だけでなく、母子保健、女性のための協同組合、環境保全などに広がりを見せています。

私たちの支援する施設は、このCCNの農業試験場の敷地の中にあります。3人の子どもたちが現在入居しています。2年前地球の木ほくぶが、地域と地域が交流でき、女性の自立や、子どもの教育と共に考えることができる支援先を探していた時、たった一人で支援活動をしている松本氏を知ったのです。農業協同組合が軌道に乗ってきた時、CCNのスタッフが孤児となって路上で生活している子どもたちを見て、いつかは、彼らのために何かしたいと思っているが、資金がないとお聞きし、私たちは少しでも役立つならばと、その施設建設費と寮母さんの給与のための支援を申し出ました。そして、平屋建、3部屋と台所の建物が暑さをしのぐために池の上に建てられました。今、入居しているのは、お寺に預けられていたり、遠い親戚に厄介になっていた村の子どもたちです。「チャーロッオウプルダイ」に来てからは、お腹いっぱいご飯が食べら



子供たちは毎朝、水くみ、トイレ掃除、畑の水やりをしています。部屋には仏像をおいて祈っています。



れ、教育を受けることができ、また将来のために支援金を積み立ててもらうなどして、彼らは、仏教的な慈悲の精神で育てられています。

今後継続的に支援していくために、2000年度、地球の木の新規プロジェクトになりました。今年度は、ほかに3人の子どもを受け入れる予定です。私たちは、これから村の子どもたちだけの施設としてではなく、町のストリートチルドレンの受け入れや、また困っている女性の一時的避難所とする等々、現地スタッフと良く話し合って、この施設を有効に利用するよう考えていきたいと思っています。さらに将来は、資金面で自立することも考えに入れた運営を目指すよう常に現地と連絡を取り合います。

この8月には、現地を訪れます。そしてその報告会を10月1日に行なう予定です。

いつかスタディツアーも企画したいものです。ぜひ、参加して、この「チャーロッオウプルダイ」を皆さんに身近なものにして下さい。





# かわりつつある北朝鮮

DPRK(北朝鮮)人道支援国際NGO会議報告

川崎 中野 真理子

6月30日から7月2日まで、北朝鮮に常駐し、活動しているUNDP、WFP、ユニセフなどの国連機関や、韓国と欧米のNGOの代表者を迎えて開催されたDPRK(北朝鮮)人道支援国際NGO会議に参加しました。各国の支援、協力を得て最悪の状況は脱し、緊急援助から開発支援の段階に入りました。とはいえ、子どもたちの栄養不足や、結核の増加など深刻な問題があり、引き続き食糧や医薬品の支援を必要としています。また、北朝鮮自身が最優先課題とする農業復興についても、土壤改良、森林再生などの分野でも支援が期待されています。

各国のNGOも国連機関も共通して口にしたのは、支援を始めた当時の北朝鮮の特殊性、閉鎖性でした。支援活動を通じて北朝鮮側の国際社会に対する不信感や警戒心が確実に薄れ、支援する側も、北朝鮮を正しく認識、尊重することを学び、信頼関係を互いに築きあげてきました。それには多くの時間を要したということでした。

1997年から始まった韓国のNGO同胞助け合い運動は、今まで敵と教えられてきた北朝鮮を、同胞として理解しようと国民に呼びかけました。それは大きな波となり、国民の中に発想の転換をもたらし、金大中大統領の政策を推し進める力となっていました。これは日本の状況を考えると学ぶ点でもあります。日本では一部報道の偏りもあり、国民感情が妨げとなって政府も支援について及び腰ですし、NGOの支援活動に対しても消極的だということでした。日本の外務省にも出席を要請しましたが、参加はありませんでした。

最悪の状況を脱したといっても、北朝鮮が自力で歩き出すためには、まだ様々な支援が必要とされます。日本として解決しなければいけない問題がある事は確かですが、各国のNGOのネットワークをいかして偏らない北朝鮮の情報を伝え、隣人としての活動が大きく広がり政府を動かす力となれば、それもNGOの役割ではないでしょうか。

このコーナーは若い人のページです

■大貫 駒 (とうぶ)



## ネグロスをもっとつたえたい



6月20日東京都日野市にあるラ・サール修道会研修所で北海道から九州までのネットワークから30人が集まり、JCNC(日本ネグロスキャンペーン委員会)全国交流ネットワーク総会が開かれました。JCNCからは1999年度の報告と2000年度の提案がされ、各ネットワークからは活動報告があり、また、若者の参加も多く、意識も高く刺激を受けいろいろとやる気になりました。会議の終了後、夜遅くまで話に花が咲き勉強になりました。

ネグロスの事が簡単にわかるパンフレットを作ったり、ワークショップに使う教材を作ったりしていました。地球の木のマジカルバナナは高く評価されていました。今、ネパールチームが学校などで行なっているワークショップの技法を借りて、ネグロスのことをやってみても面白いのではないかと思いました。ネグロス支援はJCNCを通してやっているので、いまいちネグロスとつながっているという思いが薄くなりがちですが、もう少し力を入れてもいい気がします。私たち青少年ツアーパートicipantに参加した者が、何かと情報を仕入れられる場所として存在するために、重要なことだと思います。

私自身としては、初めてネグロスに関わってから今まで、地球の木から始まってずいぶん幅が広がり、現在もたくさんの仲間と情報を交換したり、様々な活動にかかわったりしています。勉強にもなりますし、自分が楽しんでいることが何よりも幸せなことです。そのきっかけとなった地球の木に頑張って欲しいと、今後も期待しています。

# INFORMATION

ネパールから  
地球の木ネパールプロジェクトのスタッフ  
ニルマラさんとシュレスタさんが  
やってきます!!



## 地域フォーラム

二人を囲んでみんなで語ろう

\*ほくぶ、川崎、とうぶ…10月30日(月)

\*三浦、湘南…10月31日(火)

\*さがみ、県央…11月1日(水)

## カンボジア

### 横浜国際協力まつり2000

「出会い・発見・私にできること」

日 時 10月29日(日) 10:00~12:00

場 所 産業貿易センタービル 9F

内 容 テーマ:「21世紀のパートナーシップ」

基調講演:フェリス女学院大学教授 弓削 昭子氏

パネルディスカッション:ニルマラK.C.氏

定松 栄一氏(シャプラニール)他

## ■ ネパール講座 PART2

### ネパールの教育と人づくり/村づくり

毎年ネパールで調査を行ない研究を続けていらっしゃる東和大学国際教育研究所の磯野昌子先生をお招きして、8月の調査のホットなお話を聞きます。子どもの教育、人材育成で悩んでいる方も是非ご参加ください!

日 時 9月30日(土) 1:30~3:30

場 所 オルタナティブ生活館(新横浜) 2F

## カンボジアを知ろう

日 時 10月1日(日) 昼食をはさんで

場 所 青葉国際交流ラウンジ 食堂

内 容 8月に行なったカンボジア支援先の視察報告。久郷ポンナレットさんによるクメールの踊りとお話。そしてカレーライスをみんなでいただきます。

主 催 地球の木ほくぶ

問合せ 小泉(045-943-8617)

地球の木も鶴見川クリーンアップ作戦に参加します

## カニカニ発見隊に合流

日 時 10月28日(土) 14時~15時30分

(小雨決行、大雨中止)

集 合 東横線綱島駅から5分、ローソン前  
大綱橋下 14時

内 容 ナチュラリスト岸 由二氏と一緒に  
鶴見川のクリーンアップをしながら  
クロベンケイガニなど水辺のおもし  
ろい生きものを探します。

主 催 鶴見川中流応援団

問合せ 地球の木事務局



## 広報・編集 ボランティア募集

会報を作ってみたい人、  
パソコンができる人、イラ  
ストの好きな人大歓迎。事  
務局までご連絡ください

## フォーラムまつり

日 時 10月15日(日)

場 所 戸塚女性フォーラム

内 容 女性フォーラムに集う様々なグ  
ループが活動紹介をするお祭り  
です。地球の木も参加します。

## 地球の木 とは、

地球上のすべての人々が自然と共に存し、  
人がらしくあたりまえに生きていくこと  
が出来るように、地域と地域を結ぶ国際協  
力活動を行ない、相互理解を深める社会教  
育活動を通して、お互いの人権を尊重し、  
それぞれが自立した生き方を創造すること  
を目的としています。

会員募集中!

お問合せは事務局まで

045-471-5536

本誌は古紙配合率100%の再生紙を使用しています